

## 平成22年度第2回九州ブロッククラブミーティング2010 開催報告

日時 :平成 22 年 11 月 20 日 (土) 13 :00 ~ 17 :00

会場 :熊本交通センターホテル 大ホール 【第1日目】

平成 22 年 11 月 20 日 (土) に「第 2 回九州ブロッククラブミーティング 2010」が熊本県熊本交通センターホテル (大ホール) において開催されました。

このクラブミーティング 2010 には、創設支援クラブ 67 クラブ 117 名の他、地方企画班員 4 名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー 18 名、オブザーバー 2 名、総勢 141 名が参加しました。今回は、内閣府の「新しい公共」円卓会議(「新しい公共」宣言、平成 22 年 6 月 4 日)において主張された「新しい公共」の考え方や、平成 22 年 8 月 26 日に文部科学省により公表され



た「スポーツ立国戦略」における「スポーツ(振興)による『新しい公共』の形成を担うコミュニティの拠点(コミュニティスポーツクラブ)としての充実・発展」という総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」という)に対する大きな期待などを考慮した上で、全体テーマを「『新しい公共』を担う総合型地域スポーツクラブづくりをめざして」と設定し、こうした期待を担った総合型クラブづくりのノウハウ等について 4 つの Q&A コーナー(相談コーナー)を設置し、双方向的な対話による情報提供・交換を行いました。

以下では、4 つの相談コーナーにおける発表概要について報告します。

### 【1】相談コーナーの内容

#### 相談コーナー1：総合型クラブって、何だろう？どう説明すればよいのだろうか？

地域住民のみなさんに対して、総合型クラブのイメージや内容をどのように説明し、その必要性をどのように理解してもらい賛同を得ればよいのか、と多くの方々が悩まれることと思います。この相談コーナーでは、そうした悩みにお答えします。

#### 相談コーナー2：総合型クラブにはどのような理念や目標が必要なのだろうか？

総合型クラブとして、どのような理念や目標に向かって活動していけばよいのかについては、多くの方々が悩むことと思います。この相談コーナーでは、そうした悩みにお答えします。

#### 相談コーナー3：みんなが参加・協力しやすい運営委員会(運営組織)って、どのようにすればよいのだろうか？

創設済みの総合型クラブでは「クラブ会員がクラブの活動に参加するだけになっている」「誰も運営委員になってくれない(後継者がいない)」など、組織型クラブとしての総合型クラブの運営を支えるという活動へのクラブ会員の参加・協力が得られな

いといった悩みをよく聞きますが、この相談コーナーではみんなが参加・協力しやすい運営組織づくりの方法についてお答えします。

#### **相談コーナー4：総合型クラブって、どのようなスポーツ事業を計画し実践していけばよいのだろうか？**

総合型クラブには地域社会におけるスポーツ環境全体の整備・充実を促していくことが期待されていますが、創設済みの総合型クラブの多くはレクリエーション的なスポーツ教室やスポーツ大会・行事などのスポーツプログラムを提供するばかりで、既存の団体や組織等と何も変わらないという声もよく聞きます。この相談コーナーでは、総合型クラブが地域社会の実態にあったスポーツ事業を総合的に計画し実践していくための方法論についてお答えします。

## **【2】相談コーナーの概要報告**

### **相談コーナー1：地方企画班員 土谷 忠昭氏**

相談コーナー1では、(1)「これまで」と「これから」の地域におけるスポーツ振興策について、(2)総合型地域スポーツクラブのキーワード、そして(3)地域課題から見たクラブとは何か、といった3つの視点に立って説明を行いました。

特に、「地域課題から見たクラブとは何か」については、これまでのスポーツ活動に何が不足しているか、クラブ理念の構築、合意形成の方法、これからのわが町のクラブ、クラブの特性と課題、スポーツ参加への変革、スポーツとは何か、総合とは、といった8つのキーワードに基づいて説明をしました。



あまりにも基本的な課題であり、従来からキーワードもありますが、果たして住民にどのように理解させるかはとても難解なテーマです。そのため、質問も合意形成の方法は？、広報活動の在り方は？、説明がしにくい、受益者負担の意識改革は？等々、毎回クラブミーティングで問題提起される内容でした。それほどに紋切型の説明では納得しにくいということを意味しているものと思います。

最終的には、総合型地域スポーツクラブの「総合」とは「人の総合」であり、「スポーツは一つ」であることを理解していただき、地域社会の現状や対象にあった説明の方法をお願いしました。

### **相談コーナー2：地方企画班員 城野 和則氏**

相談コーナー2では、総合型クラブとしてどのような理念や目標に向かって活動していけばよいのかということでお話をしました。

その主な内容については、それぞれの地域にあったクラブの目標や目的、ミッションを明確にし、その地域社会において「何のためにクラブを設立するのか」ということを、設

立準備委員の皆さんで同じテーブルの上でしっかりと検討し、合意形成を図っていくことが重要であるということでした。また、クラブの土台づくりが不十分であれば、そのクラブは将来へ向けての積み上げができないので、時間がかかってでもしっかりとしたクラブの基礎になる理念や目標設定を行っていくことが、安定したクラブづくりになるということをお話しました。



さらには、スポーツを通していかに地域に貢献するか、自分達の地域をいかに良くしていくかということで、10年先もしくは20年先のクラブが自分たちの地域でどうなっていくかというビジョンやミッションを明確な道筋や到達点がしっかりと見えていれば、たとえ遠回りになったとしても、必ず素晴らしいクラブが創れるということを説明しました。

参加者からの質問としては、「設立準備委員会における会議の進め方をどうすればよいか」「設立準備委員でクラブに対してどう理念や目標を共通理解すればいいのか」「既存の団体との関わり方をどうすればいいか」などが出されました。

### 相談コーナー3：地方企画班員 奥松 成安氏

相談コーナー3は、1年目のクラブでは運営委員会組織がまだできていないところも多く、作らないといけないのかという疑問から始まりました。運営委員会はやはりクラブを企画・運営する実働部隊であり、この組織が上手く機能しないとクラブ運営は困難となるので、どうしても必要であることを踏まえて、どのように作ればいいのか、という討議を行いました。

第一に、「設立準備委員会と運営委員会との違いは何か」ということについて説明を行いました。具体的には、設立準備委員会は現在設立準備中のクラブに設置されており、メンバーは地域のそれぞれの団体代表者で構成されているため、準備段階での最高決議機関としての位置づけであるのに対して、その下部組織である運営委員会は実際のクラブづくりを推進する組織であり、日頃の活動計画等の企画立案・運営などを行い、クラブづくりの成功の可否を左右する大事な組織であると説明しました。



第二に、「運営委員会組織の人数はどれくらいが適当か」という質問については、もちろん人数に定数はないが、一番大事なことは会員の意見がいかに反映されるかであり、人数が多ければ必ず反映されるとも限らないと回答しました。また、意識の低い運営委員が多数いても上手く機能しないだろうし、逆に少ない人数であっても意識が高ければ良い結果が生まれるものです。日頃から、会員の意見や要望などを広く聴衆することができていれば、少人数でもいいのではないのでしょうか。常に会員に目を向けた活動が大切です。ただ、

最初は少人数の運営委員会であっても徐々に理解者や、意識の高い会員の発掘に努めて、ある程度の人数で運営委員会を組織していくことが必要だと思います。その際、性別、年齢、選出団体などに偏りがでないように注意することが大切です。

#### 相談コーナー4：地方企画班長 中西 純司氏

相談コーナー4では、「総合型クラブ経営のしくみ」「総合型クラブにおけるスポーツ事業の考え方と具体的事例の紹介」「プログラムサービス事業の企画・運営の基本」といった3つの観点から説明を行いました。はじめに、総合型クラブ経営とは、住民や会員の豊かなスポーツライフの形成・定着・発展をめざして、自主的・自律的な「スポーツ事業」を合理的かつ効率的に営むことであるということを解説しました。



次に、住民や会員の豊かなスポーツライフを形成・定着・発展させていくために必要不可欠なスポーツ事業として、会員のスポーツ行動を支えるスポーツ環境全体を整えていく活動である「基本的スポーツ事業」と、こうした基本的スポーツ事業を円滑に実施していくために必要な諸資源を調達・充実させていくための「関連的スポーツ事業」について、実際の総合型クラブの事例を用いながら説明を加えました。

最後は、基本的スポーツ事業の中でも総合型クラブが最も実施しているプログラムサービス事業（スポーツ教室や大会・行事の企画・運営など）のあり方について詳細に解説をしました。

したがって、総合型クラブが地域社会におけるアイデンティティづくりを永続的に進めていくためには、先に述べたようなスポーツ事業がマンネリ化していかないよう創意工夫をしていくことが喫緊の課題であると思われます。

### 【3】まとめ

今回のクラブミーティングにおいては、「新しい公共」を担うための総合型クラブの条件や今後の課題について地方企画班員に解説をしていただくとともに、フロアーからの質問にも回答していただくという形式で行いました。

各相談コーナーにおいて、多岐にわたる質問がフロアーから出されましたが、その集約的な回答は、「総合型クラブはスポーツ振興を通じて自らの地域は自ら創るという住民同士の『協働の場』として育成していくことが重要である」ということのように感じました。まさしく、総合型クラブは、21世紀生涯学習社会を創るとともに、「新しい公共」を担う地域住民を育成する協働空間であるということではないでしょうか。



同時に、行政も、これまで統制してきた地域資源（学校施設開放や公共施設など）と各種権限を地域住民に対してオープンにしていくという「開放志向型」行政へと変わら

なければならない時代に来ているということでもあるように思いました。

最終的には、総合型クラブが行政と地域住民との信頼関係構築の架橋としての役割を果たしていくことができるか否かが、「新しい公共」形成の鍵を握っていると言ってもよいのではないのでしょうか。

**(報告 中西純司 九州ブロック地方企画班長 /**

**土谷忠昭 城野和則 奥松成安 九州ブロック地方企画班員)**



日時 :平成 22 年 11 月 21 日 (日) 12 :15 ~ 17 :00

会場 :熊本県立総合体育館 【第 2 日目】

平成 22 年 11 月 21 日 (日) に「第 2 回九州ブロッククラブミーティング 2010」が熊本県立総合体育館において開催されました。このクラブミーティング 2010 には、クラブ関係者 328 名の他、地方企画班員 3 名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー 17 名総勢 356 名が参加しました。基調講演では、講師に株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ事業管理部長の大野公彦氏を迎え「クラブの経営戦略～クラブが提供する地域サービスとは～」というテーマでご講演して頂きました。

また、今回は、「九州からはじめよう、クラブとクラブの仲間づくり」というテーマで、九州ブロッククラブ間の交流を目的としたスポーツ交流大会を実施しました。

今までのブロックミーティングとは違う新しい試みで開催されました。

以下では、講演の概要と交流大会の内容について報告します。

## 講演

### テーマ「クラブの経営戦略～クラブが提供する地域サービスとは～」

#### \* 講演者の報告 (60 分)

講演は、株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ事業管理部長の大野公彦氏より、これまでやってこられた特色ある取組みや課題点等についてお話を頂きました。

大野氏が所属する株式会社新潟アルビレックスは、サッカーチームがありその中の陸上競技を通して多世代で活動されており特色としては競技力向上にも力をいれられていて企業の視点に立った説明をされました。

講演の中で、「アイデア・企画を生み出すのは難しいが、同様の事業を実施することは容易であるので、是非各クラブの運営において参考にさせていただきたい。」と述べられた。



特に講演の中で、地域の大学と連携し、授業のいくつかをクラブが受け持っていることや、地域のドラッグストアと協力して、協賛金ではないが、相互にメリットがあるような Win-Win ( ) の関係を築いているといったことが話された。

このように、地域の団体と連携する事によって、地域のサービスを充実させることができているということを述べられた。

また、大野氏は、事業体としての考え方や、マネジメントの具体的な事例を挙げての話も多くされたことから、参加された各クラブの方は、クラブ運営においてマネジメント的なノウハウも学べる機会になったと感じられた。

Win-Win の関係とは、あるサービスを提供する側とそのサービスを利用する側、またはあるサービスについて提携しあっているもの同士が、相互に利益を得、円満な関係で良い結果を得ることをいう。

“ Win ” とは、もちろん「勝つ」という意味である。

## 交流大会

テーマ「九州からはじめよう、クラブとクラブの仲間づくり」

### \* 交流大会(150分)

交流大会については、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催の「第1回熊本県内交流大会」も同日開催となっており、熊本県内クラブ関係者263名と九州ブロック内クラブ関係者65名、総勢328名が参加して交流大会が開催されました。



交流大会の種目については、長縄跳び・アジャタ・綱引きが行なわれ、多世代にわたってスポーツ活動を通しての交流が出来ていたように感じました。



長縄跳び



アジャタ



綱引き

表彰では、九州各県から参加されたクラブに対して熊本県から特産品の抽選会があり、当選されたクラブの方々が大変喜ばれていました。

また、大会終了時には、サンバおてもやんを全員で踊って和気あいあいの中終了しました。結果については、下記のとおりです。

## 長縄跳び

順位	クラブ名
1位	長嶺地域スポーツクラブ
2位	御幸スポーツクラブ
3位	日吉地域総合型スポーツクラブ
4位	花園スポーツクラブ
5位	NPO法人うとスポーツクラブ
6位	NPO法人桜木ふれあいスポーツクラブ
7位	オレンジはあとクラブ
8位	東部地域総合型スポーツクラブ
9位	太田郷スポーツクラブ

## 綱引き

順位	クラブ名
1位	県南 県北合同チーム
2位	九州チーム
3位	熊本市内チーム

## アジャタ

### <一般の部>

順位	クラブ名
1位	鹿児島 沖縄合同チーム
2位	宮崎県チーム
3位	日吉地域総合型スポーツクラブ
4位	龍田地域なかよしスポーツクラブ
5位	福岡県チーム
6位	太田郷スポーツクラブ
7位	うえきクラブ(u&u)
8位	南阿蘇村生涯学習支援クラブ「クラブ南阿蘇」
9位	南関すこやかスポーツクラブ
	NPO法人桜木ふれあいスポーツクラブ
	長嶺地域スポーツクラブ
	花園スポーツクラブ
	あきた総合型スポーツクラブ
	出水南どっとネット
	NPO法人うとスポーツクラブ
	カルヴァ リョ・ラツソ人吉

### <子どもの部>

順位	クラブ名
1位	長嶺地域スポーツクラブ
2位	うえきクラブ(u&u)
3位	日吉地域総合型スポーツクラブ
4位	NPO法人うとスポーツクラブ
5位	あきた総合型スポーツクラブ
6位	NPO法人桜木ふれあいスポーツクラブ
7位	南関すこやかスポーツクラブ
	花園スポーツクラブ
	熊本西総合型スポーツクラブ
	城北スポーツクラブ
	太田郷スポーツクラブ

## 総括

今回の九州ブロッククラブミーティング2010の2日目の内容については、今までのクラブミーティングでは開催されていない内容で構成されました。

今年2月に熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が設立され、総合型クラブの一層の定着・発展のためには、クラブの円滑な運営に資する情報交換や交流を活発化していくことが重要です。



また、クラブ間連携の仕組みを構築していく方向性についても模索しています。そのようなか、他クラブが開催している交流会に参加することで、クラブや地域の問題に気づかされたり、解決の糸口を見い出したり、クラブが地域に根ざしていくための機会になればと考えます。

総合型クラブは、これまでの一律に与えるスポーツ行政から、地域住民が主体的に考えて作りあげるスポーツ活動への大きな方向転換となっています。

今後は、各県連絡協議会が手と手を取り合い、連携を図り、新たな地域スポーツ振興のシステムづくりの推進を図っていく必要があります。

地域の課題や、九州の各クラブが夢を語り、お互いにできることを補い合いながらやっていくために各県の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は重要であり、九州ブロックから様々な取組みを発信できればと思います。



(報告；城野 和則 九州ブロック地方企画班員)